

科目名	地域経済論特講	担当者	ナカムラ 中村 コウジロウ 剛治郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバル経済の下で、ポスト工業化・知識経済化段階への移行が進んでいる先進国経済では、繁栄している地域経済と停滞している地域経済の二極化が顕著になっている。前者は、なぜ繁栄し、後者はなぜ停滞・衰退しているのであろうか。現代のイノベーション主導型経済の下で発展する地域経済には、どのような特徴があり、いかなる発展の仕組みが機能しているのか、都市経済の動態を具体的にしながら、地域経済の発展理論を整理し理解すること、それが本科目の第1の目的である。</p> <p>ただ、繁栄する地域経済と衰退する地域経済があるよと現状を追認するだけでなく、いかにして地域経済の発展を導くかという立場に立つ時、経済学を空間に適用する伝統的な地域経済学よりも、人々の労働と生活の場たる地域から地域経済の発展を考え、地域経済を地域経済システムとして捉える現代的な地域経済学の発展に注目することが重要である。この潮流を理解し、自分が関わる地域で具体化し、地域経済の発展をめざす地域政策のあり方を構想するための基礎的力量を形成する、それが本科目の第2の目的である。</p>		
到達目標	<p>工業化時代の地域経済の発展メカニズムとイノベーション主導型の知識経済の時代の発展メカニズムとは、どこが、どう違うのであろうか。アメリカの諸都市の盛衰に即して、外部性や集積が集積を呼ぶ特性などに注目し、現代地域経済の発展理論を説明できること、異質な人材やアイデア、諸アクターの相互作用の場、相互学習環境として、都市が注目されていることを理解し説明できること。</p> <p>伝統的な地域経済学は、空間を研究対象として経済学を研究対象に適用する「方法としての地域経済学」を特徴としてきた。新しい地域経済学の潮流として、地域経済を対象として、地域と経済が出会う場として地域経済を捉え、対象にふさわしい独自の研究方法を模索する「対象としての地域経済学」が生まれている。現代の地域経済学は、なぜ、意思を持ち行動する人間の生活の場たる地域との関係で地域経済を捉える必要があるのか、地域経済は地域を超える国民的あるいは国際的な経済活動から影響を受ける受動的な経済と認識するだけでは片手落ちで、地域ごとに多様で能動性をもつサブシステムとして理解することが、なぜ重要なのか、について理解し説明できること。</p> <p>地域経済学は、狭い地域の経済を考えるだけでなく、現代経済や日本経済のあり方を考えることでもあり、現代経済の発展は、個々の企業の成長が生み出すというよりも、どれだけ多様で創造的な地域経済の発展を生み出せるかに係っていることを明らかにする。このことを理解し、そのために必要な制度設計を構想することが重要であると理解し説明できること。</p>		
学修方法	<p>レポートに取り組む前に、教材や参考書を熟読し、地域経済学の専門知識を体系的に身につける。レポートは、課題や留意点に沿って作成し、manaba を通した教員のコメントなどを参考にして修正を重ねて、最終版としてまとめてから、manaba に改めて提出するプロセスを経ること。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げるテーマについては、草稿としてまとめる前、その途中に、manaba 掲示板スレッドで事前相談することができる。</p> <p>いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げるテーマについては、草稿としてまとめる前や途中に、manaba 掲示板スレッドで事前相談することができる。</p> <p>いずれの課題も2017年1月課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に沿った論理構築がなされているか。 学修方法に沿ったレポートになっているか。 十分に教材を読み込んでいるかどうか。 掲示板での紹介を含め、参考文献、先行研究などの文献渉猟が十分かどうか。
	平常評価	20%	manaba を通して行われるコメントに関する修正割合
履修者への要望	<p>地域経済の発展というと、農山村地域における農林業など1次産業の6次産業化や地方都市におけるインバウンド観光への適応のことで受け止める人がいるし、ハウツー本も出版されている。それらの実践的取り組みは重要だが、個々の事業経営の成功物語に終わって、地域経済の二極化傾向のもとで、地域経済全体の発展を導くまでには至らない場合が多い。やはり、より広い立場から、本命としてのイノベーション主導型知識経済の時代の地域経済学を学ぶこと、地域経済学の現代的な発展を学ぶこと、の重要性を認識し、是非とも、ふるって履修していただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： エンリコ・モレッティ 教材名： 『年収は「住むところ」で決まる一雇用とイノベーションの都市経済学』（プレジデント社，2015年）ISBN:978-4-83-342082-2 2,000円+税</p> <p>(2) 著者名： 中村剛治郎編著 教材名： 『基本ケースで学ぶ地域経済学』（有斐閣，2008年，ISBN:978-4-64-118354-4 2,400円+税，（新版2016年前半発行準備中）</p> <p>前期は，アメリカや日本などにおける都市経済の盛衰，その背後にある経済メカニズムを理解する。地域経済学の理論の現代的な発展を学ぶ。教材は事例が中心なので読みやすいし，分かりやすい。</p>
参考図書	掲示板で本科目に関連する近年の拙稿や関連文献を適宜紹介する。
履修上のポイント	<p>1. アメリカの都市経済の盛衰，その動向を理解する。発展する都市経済には，どのような傾向を見て取ることができるか，教材1を読みながら整理して下さい。</p> <p>2. 教材1と教材2を読み比べ，その背後にある理論について，どのような共通性と違いがあるかを考えなさい。</p>
レポート課題1	<p>現代の先進国経済では，なぜ，イノベーション主導型地域経済でないと発展を期待することが難しいのか，述べなさい。イノベーション主導型経済の発展には，いくつかの特徴があるが，地域経済の発展理論として整理しなさい。イノベーション主導型経済は，なぜ特定の地域で集中的に発展する傾向があるのか論じなさい，そこから，現代経済を理解するには地域経済学を学ぶことが重要になっていることを論じなさい。</p> <p>留意点：教材1を，アメリカの都市の盛衰の動向を事例で知るだけでなく，各所に指摘されている理論的な言及を論点として整理する立場で，線を引キノートを取りながら読むと，解答に接近することができよう。</p>
レポート課題2	<p>現代経済の下で，少数の発展する地域経済と多数の停滞する地域経済があることは分かるが，後者の地域経済がイノベーション型産業の集積による自律的に発展する産業集積地区へと発展するにはどうしたらよいかという地域政策の課題について，教材1は，どこまで解明できているであろうか。教材2は，この点について，どのように考えているであろうか。両教材を比較して検討しなさい。</p> <p>留意点：教材1では，イノベーション産業の特徴が一般的に論じられている。偶然をきっかけにした集積効果の説明では，政策論としての意義が弱くなる。教材2の序章のフィンランド・オウル地域論やスウェーデンのシスタ地域論，アメリカのシリコンバレー地域論では，主体重視の動的で発展論的な比較地域制度アプローチの立場から，上記の課題に迫っていることに注目すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 中村剛治郎 教材名： 『地域政治経済学』（有斐閣，4刷2013年）ISBN:978-4-64-116213-6 3,400円+税 *注：10ページまたは9ページから読んで下さい。初めの部分は，伝統的な地域経済学の解説ですが，短く要約されているので理解が難しいかもしれない。詳しく知りたい人は，宮本憲一・横田茂・中村剛治郎編『地域経済学』有斐閣の第1章や第3章を読んで下さい)</p> <p>(2) 著者名： 中村剛治郎編著 教材名： 『基本ケースで学ぶ地域経済学』（有斐閣）2,400円+税（新版2016年発行準備中）</p> <p>後期は，改めて，地域経済とは何か，現代に求められる地域経済学とは何かという基本問題に立ち返って，地域経済の発展を導くには，何が必要なのか，地域政策はどうあるべきかを考える。</p>
参考図書	掲示板で本科目に関連する近年の拙稿や関連文献を紹介するので，ご参照下さい。
履修上のポイント	<p>伝統的な地域経済学は，空間を距離でとらえ経済活動に輸送費を課すものと認識し，その克服を課題とする産業立地の問題，産業立地の結果として形成される経済地域を研究テーマとしてきた。技術が進歩し，輸送費の制約が低下し，垂直統合経営を行う大企業が発展すると，大企業の誘致が地域経済の盛衰を分けると考える立場が強まり，単線的に企業誘致を促進する地域経済学が盛んになった。現代の地域経済学では，人々のアイデンティティに関わる生活の場としての地域と関わるものとして地域経済を捉え，地域経済は地域ごとに多様なサブシステム（地域政治経済システム）であり，多様な発展経路を特徴とする，考える地域経済学が登場した。地域経済の発展の基礎に地域が歴史的に形成してきた地域諸アクターが共有する考え方，社会的文化的制約的な要因があることを理解することが重要だとする立場である。地域経済学の潮流を理解し，なぜ，どのように，そのような現代的な発展が生まれているのか，どのような意義を有するのか，について考えることが，後期の履修ポイントとなる。</p>
レポート課題1	<p>企業誘致に依存するだけでは，教材1の4章が示すように，地域経済の自律的な発展システムの形成につながらない。同1章6節や4章が示すように内発的発展の道を基本とすべきである。最初に，そのことを確認し，理解していることを具体的に展開したうえで，次の問題として，進出企業にただ依存するのではなく，地域に根付かせる制度的仕掛けを通して，地域経済の自律的な産業集積地への発展を拓いた事例（教材1米国ポートランド，教材2フィンランドのオウル）があることを知り，その現代的意義について論じなさい。</p> <p>留意点：知識経済の時代には，知識を生み出し工夫する人的資源が富を生み出す最大の源泉になっているという視点が重要なカギを握る。</p>
レポート課題2	<p>地域経済を単に雇用や所得の量的成長の面から見るのではなく，ミクロの企業とマクロの国民経済の中間に位置するサブシステムとして（教材1・2では，地域政治経済システム）として理解するとは，どういうことか，伝統的な地域経済学の地域経済理解とどこがどのように異なるのかを示しつつ，地域経済をサブシステムとして捉える方法の現代的意義について論じなさい。（レポート課題2は，末尾注の通り，独自課題に変更可能）</p> <p>留意点：システムとは，一つの有機的な組織であり，変化への独自の対応力，能動性をもつことを意味するので，システムアプローチは，地域経済の発展が単線的でなく，多様性を特徴とするという認識に導く。</p> <p>*注：自分で独自に行った事例分析をまとめたレポートで代えることを可能とします。事前にご相談下さい。</p>